



大正大学エンビズコースの学生が映像祭を開催 ～表現業界を実践的に学ぶ～

大正大学（学長：勝崎裕彦 東京都豊島区）では、11月1日（土）に表現学部表現文化学科エンターテインメントビジネスコース（以下エンビズコース）の学生が、「世界自然・野生生物映像祭 in 大正大学」を開催し、野生生物に関する世界3大映像祭の一つ、「世界自然・野生生物映像祭」の作品を上映します。エンビズコースの学生が主体となり、自らのキャリアアップ・スキルアップを図るため、映像祭の運営に取り組んでいます。

「世界自然・野生生物映像祭 in 大正大学～命を見つめる、自然を想う～」は、2013年の「世界自然・野生生物映像祭」の受賞作品を中心に、学生が厳選した作品を上映します。開会式ではNPO法人地球映像ネットワークの太田裕久代表による挨拶、上映後には『クニ子おばばと不思議の森』（NHK）でディレクターを務めた柴田昌平氏のトークショーを予定しています。また、子ども向けのアニメーション作品も上映します。

本映像祭は、エンビズコースの学生が主体となって企画から運営まで行っています。エンビズコースは、設立2年目を迎え、学生が普段学んでいるマネジメントやチームワーク、リーダーシップなどを実践する機会として、授業の一環でこの映像祭に取り組んでいます。

- ◆開催日時 平成26年11月1日（土）12:30～15:40
- ◆場所 大正大学7号館5階（都営三田線西巣鴨駅から徒歩2分）
- ◆上映内容 『トラの女王～14年の記録～』、『南極の涙』他

主催・企画・運営：大正大学 表現学部 表現文化学科
エンターテインメントビジネスコース
協力：NPO法人地球映像ネットワーク

ブログ：<http://www.tais.ac.jp/education/faculty/b-5/blog/>



トラの女王～14年の記録～



◆大正大学 総務部法人広報室 担当：杉田

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

TEL：03-5394-3025 FAX：03-5394-3068 E-mail：kikaku@mail.tais.ac.jp

【世界自然・野生生物映像祭 in 大正大学で上映予定の映像概要】

『トラの女王～14年の記録～』

(約59分/イギリス マイク・パークヘッド・アソシエイツ プロダクション制作)



メスのトラ、マクリスの一生とその家族の物語を描いた作品。生まれながらにして戦士であり、愛情深いトラの母親の一生を見ることができる。一匹のトラを14年間追い続けた映像の集大成。縄張り争いや狩りという強い部分だけでなく、水遊びや寝姿といった、可愛らしい映像も含まれている。

『南極の涙』 (前半約35分、後半約35分/韓国 MBC韓国文化放送制作)



氷の大陸、南極。この極寒の地では、動物の親子が共に生きていく姿を数多く見ることができる。中でも、MBCがアジアの報道関係社の中で初めてカメラに収めた、皇帝ペンギン親子の生命の誕生から死までの愛情物語は、涙なしでは観ることはできない。

『クニ子おばばと不思議の森』 (約49分/日本 NHK、プロダクション・エイシア制作)

縄文以来続けられてきた焼き畑。宮崎県椎葉村の山奥に、今も焼き畑を作る、村人から「おばば」と呼ばれ親しまれている椎葉クニ子さんが暮らしている。30年周期で山全体を一巡する焼き畑は、毎年焼く場所を変えながら畑を作り、収穫したら森に返す。人間が自然の循環の一部となって暮らす最後の風景。焼き畑の営みに込められた日本人の知恵を、村の四季と共に描き出す。

『ボクたちの自然』 (約5分/ニュージーランド ナタシャ・ビショップ制作)

地球の自然が、人間のある行動によって一つの問題を抱えてしまった。自然の元気がどんどんなくなって行って…。自然はこの先どうなるのかな？地球の自然と人間の短いアニメーションストーリー。

『ファインダーの中の野生』

(約26分/ハンガリー フィルムジャングルEU、ナットシェル・プロダクションズ制作)

写真を撮ることは、決して簡単ではない。誰でもが息をのむような野生生物の一瞬の動きを、完璧にカメラに捉えられる訳ではない。写真家ベンス・マテは姿を隠すことで、その不可能を可能にした。ベンスは、滅多に見ることのできない瞬間にシャッターを切り、貴重で珍しい命の姿を写真に収めていく。

『ジンバブウェの像』

(約52分/南アフリカ トリオスフィアプロダクション、NHUアフリカ制作)

キャリアウーマンとして精力的に働いてきたシャロン・ピンコット。彼女はこれまでの華やかな生活を捨て、ジンバブウェでゾウと共に生きることを決断した。周囲からの妨害にめげることなく、野生のゾウと親密な関係を築き上げた彼女。ゾウを守りたい—その想いをシャロンは映像を通して訴える。

★ゲストプロフィール

・柴田 昌平(しばた しょうへい)

1963年生まれ。映像作家。NHK、民族文化映像研究所を経て、現在は映像制作会社(有)プロダクション・エイシアの代表を務める。初監督作品『ひめゆり』(2007年)は、「キネマ旬報ベストテン」、「文化映画ベストテン」1位など8冠を達成し、その他多くの受賞作を手掛ける。

・太田 裕久(おおた ひろひさ)

1944年東京生まれ。テレビ番組の制作などを経て、81～88年にかけて、ニューヨークを拠点に、米国・公共放送(PBS)向けのドキュメンタリー番組や日米の衛星中継番組を制作。91年の米国「ジャクソンホール・ワイルドライフ映像祭」の創設に関わったのち、93年に「世界自然・野生生物映像祭」(JWFF)を設立。映像祭の総合プロデューサーを務めてきている。

★世界自然・野生生物映像祭(Japan Wildlife Film Festival)とは

NPO法人地球映像ネットワークが第1回を1993年に富山県で開催。地球の貴重な財産ともいえる自然や野生生物の姿を通じて、多くの人たちに「地球の今」を伝え、地球環境保護への理解、関心を高めることを目的としている。世界40カ国、400作品の応募が集まり、4日間7会場で延べ3万人超を動員。今やアジア・オセアニアを代表する映像祭である。

★大正大学とは

1926年に創立。大乘仏教の精神に基づく「智慧と慈悲の実践」を建学の理念として、積極的に社会との接点を深め、地域コミュニティに関わってきた歴史と伝統のある大学である。

★エンターテインメントビジネスコースとは

表現学部 表現文化学科の5コースの中の1つ。2013年設立。座学だけでなく、実際のプロジェクト運営など実践を通して、経営能力の育成に取り組んでいる。多角的に物事を見つめ、問題を提起・解決する力を磨きながら、業界の枠を超えて広く社会で活躍できる能力を養っている。